



題字は松井岳洋

No.399
平成22年1月

発行
(社)日本吟吟学院岳岳会 認可
碩心会

発行者 加藤岳洵
編集者 伊藤岳光

神奈川県葉山町堀内206
Tel/Fax. 046-875-3723

新年のごあいさつ

会長 加藤 岳洵

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



碩心会も創立73年目の春を迎え、私達は輝やかしい歴史に誇りを持つと同時に、この伝統をしっかりと後世に引継ぐ義務を負っています。しかし、吟界は青少年の育成難、社会情勢の変遷、加えて高齢化等による減少に歯止めがならず、現実の厳しさを痛感しているのが現状であります。総本部におきましても、平成22年度の予算における会員見込数は平成20年度決算に比べ5300名の減少となっております。高齢化と吟詠人口の減少を思うとき、このままでは、琵琶、浪曲、長唄等日本の伝統芸能がたどってきた道を吟界も踏もうとしてい

るのではないかと思われる次第です。

吟界の指導者はこの現状を深く認識して、飽きられない吟詠はどうあるべきか。このことに思いをいたし、当会の師範研修会においても、指導者の質の向上を図るべく、発声、発声、アクセント、節調、音程、詩心等の研鑽が大切で、どの分野も限らない深さがあり駆け足で素通り程度の勉強では充分理解できるものではなく、この点を重点に実行し魅力ある吟詠家を目指す研修にしたいと考えています。また、吟詠発表会の舞台においても伴奏、照明、舞台装置と相俟って立体的な構成吟詠を目指して運営したいと思っております。

「創意工夫とチャレンジ精神を持って、繁栄に務め、互いに尊敬される吟友、師でありたい。」これを本年の目標といたしました。

どうか、この目標に向かって会員の皆様が発力して頂くようお願いいたします。年頭のご挨拶といたします。



行事予定

詩吟体験教室 *Let's SHIGUN!*

日時・2月20日(土) 午後1時～2時30分
場所・葉山町立図書館・2階ホール

全国優秀吟者吟道大会

日時・3月7日(日) 午前9時30分開場
場所・明治神宮会館

春季昇伝段審査会

日時・3月20日(土) 午前9時30分受付
場所・葉山町福祉文化会館

平成21年度功労者表彰

壽90歳の部 千葉岳関 中村岳郵

指導者の部 宇都宮岳徳

運営者の部 磯村岳朋

永年にわたる吟道普及の貢献に対し、第一二〇回全国吟道大会において、右記の4名の先生方が表彰されました。

昇伝段位認許

(平成22年1月1日付)

(九段 1名)

102 富永延岳

(総伝 3名)

59 角田岳久

60 守谷岳信

64 小金岳智

平成22年 初吟会

平成22年1月17日(日)
於 葉山町福祉文化会館



昔から伝わる「いろは歌」に吟符をつけて
全員で大台吟(真澄支部)



初吟会式典で挨拶する加藤会長



沖縄舞踊を踊る
臼井岳照さん(相洋支部)



全国優秀吟者吟道大会に碩心会を代表して出場の
鴨原隆風さん(幸和支部)「津軽謙良節」



童心に戻り「四季の童謡」を歌う
篁風支部の 陽ちゃん 栗ちゃん 松ちゃん 高ちゃん 他



「誰よりも君を愛す」他
つけ鼻を付けて
(東伏見支部)

初吟会に参加して

滝の坂支部蒲田教場 佐藤 節風
「今年また 初吟会で 皆和せり」
初吟会に初めて参加しました。滝の坂は当番支部の為、事前準備や司会進行等役割を分担して当たりました。上村先生はじめベテラン陣を中心に皆の協力で会を盛り上げる事ができました。各支部の出し物は多彩・ユニーク・温もりある余興内容でお正月を初笑いしました。参加会員の詩吟に対する熱風のような情熱と若さを感じる夢ある初吟会でした。楽しい一日が過ごせた事皆さんに感謝します。



ウルトラ体操・赤白の旗の昇降・酒吟コール(替え歌)等々
懇親会担当支部として最後まで盛り上げて下さった
滝の坂支部の皆さん

吟詠と詩舞の集い

東伏見支部 山田 遼 岳

戸外で弁当を開くほど、うららかな小春日和の11月28日に温習会改め「吟詠と詩舞の集い」が開催され、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

李白に関するナレーションと共に舞や幻灯を交えての「詩仙李白を詠う」、小学校六年生や89歳の老先生達の詩吟との出会いに関する語り合い、そして葉山町の著名な短歌俳句の作者の作品をその場で会長・副会長が詠じられる町民との触れ合い等々、なかなか画期的な見事な企画で盛況裡にあつという間に締め万歳三唱となつてしまいました。

その間、昇段者への許証授与が行なわれ、また卒寿及び功労者の先生方の表彰が行なわれました。アラ90の先生方の矍鑠とした雄姿、凛とした吟には何時も敬服し、そして元氣と勇氣と目標を頂いています。

また随所に素晴らしい詩舞を華麗に披露して頂き、吟詠と共に楽しませて頂きました。これだけ立派な催し物だっただけに、もつと会員以外の方々にも鑑賞し楽しんで貰いたいと思います。その為には各自自治会にプログラムを添えて回覧する等の宣伝活動を活発にしたら如何かと思えます。

詩吟と私

幸和支部 河田 好 岳

去る11月14日、緊張と不安のなか始めての皆伝会に出席させて頂きました。

教場捜しのお手伝いをさせて頂いた折縁あつて入会しましたが、以後熱心な指導者の導きにより伝統文化である詩吟を仲間と共に楽しく学んできた結果皆伝に至ることが出来てもうれしいです。皆様有難うございました。

詩吟との出会い

滝の坂支部 歌代 宗 山

全く未知の世界に入つて早くも5年、その出会いは偶然でした。

人生七十古希を迎える年の元旦に、早朝の湘南国際村へ初日の出を拝みに行つたところそこにいた数名が詩吟を詠じ始めました。

晴天の空に輝く太陽が昇り始めた時「祝賀の詞」
「神州」を厳かに且つ神々しく、昇つて行く太陽と共に朗々として見事に調和したその吟声は初日の出を祝う為に来た周りの数多くの人々の心にも強い感銘を与えているようでした。

次に初日の出の光を受けて黄金色に光る富士山に向つて「富士山」を詠じた時、私は日本人なんだという感慨を全身に感じました。

私はこの光景を残す為に慌ててシャッターを切り、その写真を上村先生に送りましたところ先生より教場への見学のお誘いを受けたのです。

この事が私の一期一会の出会いとなり今の私があります。毎年元旦に行われる「湘南国際村・初日の出の吟」大切な出会いの場所へ行くのが新年の楽しみになっております。

「準師範」をいただいて

吟秀支部 市川 岳 穂

27年間の練習の結果、このたび準師範をいただき感謝申し上げます。

同級生の間で趣味の話になつたとき仕事一筋だった多くの友人と比べて仕事プラス詩吟が残つた自分を誇りに感じており長年の努力に対して自分をほめるとともに、師弟の関係を共有できた自分史に感慨を深めています。

故加藤岳相先生から現在には加藤岳芳先生に代わつても、毎週の教場は1週間の内の一番緊張感ある時間となり、仕事と詩吟が振り子のように相互に影響を与える好循環となっております。

日本の漢詩に始めてふれたときの感動は今でも新鮮に残っています。今後和歌、俳句、新体詩の味わいも大切にしつつ楽しい時間を過して行きたいと思えます。

支部紹介

悠吟支部の近況

悠吟支部 人見 岳海

悠吟支部は11名です（男性2・女性9）
勤めている人もいるため、練習は昼と夜の
部に分れております。

昼の部は火曜日午
後2時から、夜の部
は金曜日午後7時か
らそれぞれ2時間、
返子コミュニケーション
センターで練習に励ん
でおります。

指導者千葉先生は
吟歴45年、ご高齢で
すがお元気でご指導
をいただいております、
誠に有難く深く感謝
しております。

練習に先立って先生より会の連絡、伝達事
項等があり、「碩心会の詩」の合吟で練習が
始まります。一昨年10月より教本は「普及版
・吟詠教本漢詩篇」と「朗詠集」（豆本）を
主に練習を行っております。
仲よく楽しく今年も吟に励みます。



平成21年12月 懇親会

“上には上が”

東伏見支部 田邊 香山

3月のゴルフ日和のこと。梅が満開のある
ホールで、突然キャディーさんが唯者でない名
調子で「庭上の〜」と吟じ出しました。

田「詩吟やってるの」キ「昔、少しやっ
てました」田「私も5年程」キ「何流
ですか」田「岳風だけど」キ「同流で
すね、今でも母音に返す、教えてますか」
田「専門的だなと感じながら」勿論、私
は下手で毎回厳しく指導受けてるよ」
キ「もう無くなったと聞いたんですけど」
田「（大いに自慢気に）今、五段で『山』
なんだよ」キ「私も『山』だったんで
すよ」田「じゃあ、同じだね」
キ「でも私のは『山』の上に『丘』が乗っ
てますけど」田「ええ！それじゃあ『
岳』だね、教えているの」キ「この仕
事を始め研修会に出る時間なくて止めま
した」

何故かガククリした気分になり、以後まっ
たく惨憺たるスコアとなり仲間から「キャデ
ーさんに圧倒されたね」と大笑いされる破目
になりました、何事にも「上には上が」居る
ものですね。

会員のうごき

*入会

- 235 水谷 伊織 (吟秀)
横浜市金沢区富岡西4-27-2
☎ 045-771-5594 紹介者 市川岳穂
- 236 高山 和子 (渚)
鎌倉市大船1285
☎ 090-1700-9113 紹介者 梅田萌泉
- 237 小林 芳正 (滝の坂)
葉山町下山口1674-4
☎ 046-894-0990 紹介者 詩吟体験教室

*退会

- 72 徳本華岳 (渚)
87 岡本優岳 (紫陽花) 死亡

編集後記

2010年が幕を開けた。
一年の計は元旦にあり」と
は昔から言われている諺です
が、私は世阿弥のことは「初
心わするべからず」が浮びま
した。

詩吟と出会い十分な意味も
理解せず詠じていた日のこと
を、漢詩の奥深さが少しづつ
分ってきた今、いつまでも畏
敬の念を持ち進んで行こうと
思います。

広報部

| 22年1月現在 | 会員数 |
|---------|------|
| 葉山地区 | 126名 |
| 返子・大船地区 | 92名 |
| 合計 | 218名 |